とうにうん

第２６号　２０１３年６月２９日
ＪＲ東海労東二運分会
責任者　庭山　義輝
編集　教宣部

すり込まれた忠誠心

「慰霊の日」沖縄に米軍上陸…せまられた集団自決

１９４５年６月、太平洋戦争末期の沖縄戦で米軍が最初に上陸した慶良間（けらま）諸島では、国家への忠誠心をすり込まれた住民の家族同士がナタやノコギリで切りつけて殺し合う「集団自決」が起きたと報道された。

６月２３日、沖縄では、県と県議会が主催する沖縄全戦没者追悼式が、最後の激戦地、糸満市摩文仁（いとまん　まぶに）の平和祈念公園で開催され、戦後６８年を迎えて戦没者に哀悼の祈りをささげ、恒久平和を誓ったとも報道された。

その、追悼式で読まれた“へいわってなにかな”で始まる小学生の詩が出席した安倍首相や橋下大阪市長を含めた大人たちの責任を厳しく問い詰めていた。

太平洋戦争とか沖縄というと、遠い過去のこととしてみてはいないか。距離の離れた遠い所の人ごとと思ってはいないか。しかし、決して私たちに無関係ではない。大人の責任として、無関心を装っていてはだめだ。

現に、憲法を改悪して、１００年ほども前の大日本帝国憲法（明治憲法）と同じ様にしようとする動きが出てきている。日本を守るために「自衛隊を国防軍に」、「天皇を元首に」、「集団的自衛権は当然」と言うだけでなく、自民党は、同じ内容を「日本国憲法改正草案」として早々に出している。

当時の日本は、子供を含めて全ての国民が「天皇陛下バンザーイ」と言って死ぬことを強制された。兵士だけではない。子供も女も年寄りもだ。だから、家族同士で殺し合う「集団自決」が存在した。

最近も「天皇陛下バンザーイ」と絶叫した総理大臣や国会議員がいた。この総理大臣は「アベノミクス」を振りかざし国民に向かって、次から次へと「矢」を放っている。これでは黙っているわけにはいかない。

決して「集団自決」や「天皇陛下バンザーイ」を繰り返してはならない
今こそ、憲法改悪反対！　憲法９条堅持！　と声を出そう